

令和2年度

兵庫県立視覚特別支援学校

支援部

アイ・あい だより



5月号

ことばの日



5月18日は「ことばの日」となっています。言葉について考える日であり、言葉を正しく使えるように心がけることを目的とした日です。私たちの使う言葉は音声を使う「話し言葉」と、文字を使う「書き言葉」の2つに分けられます。次の単語を声に出して読んでみてください。

「洗濯機」「水族館」「体育」「松茸」

センタッキ、スイゾッカ、タイク、マッタケと読んだ方もいるのではないのでしょうか？私たちの日常には言葉が欠かせませんが、上記のように話し言葉として本来とは違う読み方を無意識にしていることがあります。「2時間目は、たいくです」と聞いて、「体育」と判断できると思います。しかし、漢字テストの読みの問題で「たいく」と書くと不正解です。話し言葉で単語の間の文字を促音にかえたり、1文字抜かしたりしても会話の中では通じますが、この機会に1音1音にも意識を向けてみてはどうでしょうか。



「Field of view」とは視野という意味です。では、「視野」という言葉を思い浮かべて、皆さんはどのようなことを思い浮かべますか？「視野に入れる」「国際的な視野をもって」というように、物事を考えたり判断したりする範囲を意味する言葉としても使われている「視野」について、今年度はお話していきたいと思います。

視覚を持っているのは人間だけではありません。多くの動物が視覚から情報を得ています。しかし、見え方は顔のどこに目があるか、どのような生態であるかなど、種によって違います。人間とほかの動物の視野を比べてみましょう。



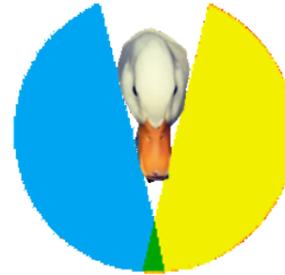
視覚機能としての「視野」とは、眼を動かさずに見ることのできる範囲のことをいいます。人間の最大視野角は水平方向に約200°（左右100°）、垂直方向に約125°（上50°、下75°）といわれています。人間の両目の位置は、ほぼ平面の顔面上にあり、左右の視野の重なり合いが大きいので、両目で同時に見える範囲が、約120° ■ です。



片目で見える範囲



両目で見える範囲



アヒルの視野は水平方向で約300°であるが、両目で見ることができるとは狭い。

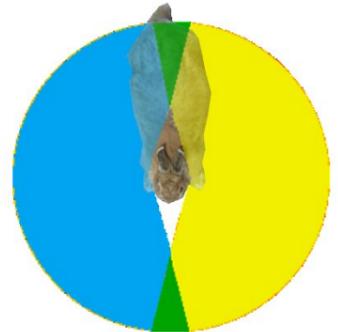


肉食動物にすぐに気づけるよう周囲を広く見渡すために草食動物の目の位置は顔の側面にある。

肉食動物は、獲物を逃がさないようにするため、目の位置が顔の前。後ろが見えないのは襲ってくる敵が少ないから。



ウサギは、目が顔の横について皮膚面から飛び出している。360°に近い視野を持っている。



人の両目で見える範囲 ■ はほかの動物と比べると広いことがわかります。人は、前方に見えるものを立体的かつ微細に見ることができます。それは、道具を作ったり使ったり手を使って細かい作業をするからではないでしょうか。弱視の方は、立体感や距離感をつかみづらくなります。周囲を把握するために、経験や訓練を積み重ねることが大事になってきます。次回は中心視野と周辺視野のはたらきについて詳しくお話ししていきたいです。